

全国ネット通信



Japan Network for Climate Change Actions NEWSPAPER



Index

※●内の数字はページを表しています

| | | |
|----------------------|-------------------------------|--------------------|
| ● 1 熊本への想いから | ● 4 地域における地球温暖化防止活動 | ● 5 環境マークPG×キリンコラボ |
| ● 2 気候危機とコロナ危機 | ● 4 脱炭素チャレンジカップ | ● 6 スタッフ紹介 |
| ● 3 令和元年度全国センター事業の紹介 | ● 5 NHK「あさイチ」がうちエコ診断にクローズアップ! | ● 6 プンちゃんのひとりごと |
| ● 3 第16回社員総会 | | ● 6 櫻田彩子のミニコラム |

熊本への想いから

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長 高田 研
(都留文科大学 特任教授)

毎日溢れるように、ネット経由でボランティアの仲間が苦戦している情報が熊本から送られてきます。心は彼らと共にあるのですが、私は学生たちと山梨で悶々と過ごしております。2016年4月14日の熊本地震では5月頭に熊本に基地を設営し、全国から多くのボランティアを受け入れました。当時被災した側にいた熊本市内の自然学校の仲間が、今度は人吉市内で泥にまみれて活動しています。

私の所属するRQ災害教育センターは2011年の震災以後、防災教育ではなく「災害教育」の重要性を主張してまいりました。それは被災地でボランティア活動を通じて若者たちが学ぶことです。被災家屋から家具を運び出す経験、床下の泥をかき出す経験、被災した人々に寄り添うことで体験する人と人とのコミュニケーション。それは、今私たちが置かれているコロナ下でのコンピューターを通じたコミュニケーションでは学べない、臭いのある世界からの学びです。問題はこの現実を自分の身体感覚で捉えることができるのかということです。自分の身に起こったことであれば誰もが慌てて手を尽くすでしょう。

気候変動による災害の発生、そして新たな病原菌の問題は温暖化の問題と切り離せないことは以前より指摘されてきたところですが、我々はそのことを身体化してこなかった。今もまだそうかもしれません。

私たちの地球温暖化防止のために作られた全国組織は、この意味からとても重要な職責を担っていることを今更に感じます。これまでと同じ事をやっているとSDGs 2030年のゴールにも間に合わないことも明らかです。全国のセンターの皆さんと知恵を出し合って、新しい日常ではなく、“新しい未来”を作るために共に変化していきましょう。



写真：被災地の小学校で働く卒業生を訪ねて (2016年5月)

今年は新型コロナウイルス感染拡大対策により世界中で経済活動が制限された影響で、世界のCO₂排出量が大幅に減少しました。4月上旬のピーク時には昨年度比17%程度の減少、年間を通じると今後の経済回復具合によりますが7%程度の減少になると試算されています。今年だけ7%減少して来年から元にもどれば、大気中のCO₂濃度増加や気温上昇にはほとんど影響はなく、今後も温暖化が進んでいくこととなります。一方、もしもこれから毎年7%ずつCO₂排出量を減少させていくことができれば、2050年に排出実質ゼロを目指すパリ協定の「1.5°C」目標が達成できるようなペースです。

皆さんはこれを聞いてどう思うでしょうか。「あれだけみんなずっと家にいて何もなかったのに、それだけしか減らないの?」と思う人がいるでしょう。このことは、生活の仕方を変えるだけでは温暖化は止まらないという事実を私たちに実感させてくれます。もしくは、「経済活動を我慢したらCO₂排出が減ったんだから、温暖化を止めるにはもっと我慢しろということか」と思った人もいるかもしれません。しかし、今年だけでも多くの不満と悲鳴が聞こえてくるのに、これから毎年さらに強く経済を止めることを望む人はいないでしょう。

私たちがここで再認識すべきなのは、温暖化を止めるための本質的な行動は「脱炭素」、すなわちエネルギーなどの社会経済システムをCO₂を出さないものになり替えることであり、生活の中でCO₂を出す活動を個々が少しずつ我慢することではない、ということです。

コロナ危機においては、私たちが日々の生活の中でマスクをしたり、手洗いや消毒をしたり、人との距離をとることは、感染拡大を防ぐために本質的に重要です。同様に気候危機において、私たちが日々の生活の中で少しずつ省エネしたりしてエコに暮らすのが本質的かという、僕はそう思いません。それがまったく無駄だとは言いませんが、

気候危機とコロナ危機



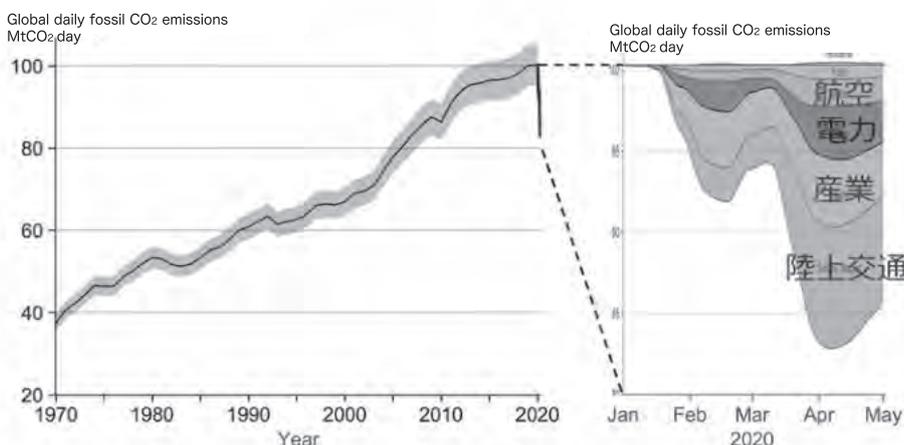
国立研究開発法人 国立環境研究所
地球環境研究センター 副センター長
江守 正多

1970年神奈川県生まれ。
東京大学教養学部卒業。同大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。
1997年より国立環境研究所に勤務。
地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長等を経て、2018年より現職。
2016年より社会対話協働推進オフィス代表を兼務。
専門は地球温暖化の将来予測とリスク論。
気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次・第6次評価報告書主執筆者。
脱炭素チャレンジカップ2021では審査委員長を務める。

もしそれだけで満足して、自分の役目は果たしたと思ってしまったら、非常に残念なことです。気候危機においては、あと30年

でエネルギーなどのシステムの脱炭素化を完成させなければなりません。私たち一人ひとりが、そのことに関心を持ち、そのことを人と話し、脱炭素に取り組む企業や政治家や自治体を応援することで、それを後押しすることが、気候危機において真に必要な行動だと思います。

世界の化石燃料起源CO₂排出量の推移



© Source: Le Quéré et al. Nature Climate Change (2020); Global Carbon Project (2020) より



令和元年度に実施した全国センター事業の紹介

全国ネットは、環境省から全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）（以下、全国センター）の指定を受け、家庭や地域で実施できる温暖化対策の普及やCO₂削減効果を推計するための調査研究等を行っています。ここでは、昨年度に実施した事業活動の一部を紹介いたします。

啓発活動・広報活動のための教材ツールの制作

COOL CHOICEを広く紹介するために、気軽に手に取りやすく、持ち帰りが容易な「ポストカード型」の啓発資料を制作しました。全8種類のカードは、COOL CHOICEの8つの重点施策を分かりやすく紹介しています。学校や団体、企業等で実施される啓発活動の内容に合わせて、8枚セットの全配布だけでなくテーマに合わせた1枚の配布もでき、展示や講習の補足資料にもなります。全国センターのウェブサイトからダウンロードできますので、ご活用ください。

また、イベントに来場する小中学生や親子を対象に、COOL CHOICEの正しい理解と実践促進を目的とした教材ツールとして、「COOL CHOICE研究所」を制作しました。これは、ガチャガチャ（カプセルが出てくる箱型ゲーム）をアイキャッチにして、参加者がCOOL CHOICEの各種施策について理解を深めるための教材ツールであり、エコライフフェア2019やエコプロ2019にブース出展した際には好評でした。



▲ COOL CHOICE ポストカードセット

地域における普及啓発活動の広報

全国の地域センターが中心となって実施されている「COOL CHOICE」の普及啓発活動に係る事例を収集・整理し、「COOL CHOICE推進活動事例集」として全国センターのウェブサイトを通じて情報発信を行いました。本事例集は、テーマや対象に応じた啓発活動事例の水平展開に資するものとして作成したもので、自治体や企業、団体等で活動を企画される際の参考となるものです。



▲ 教材ツール「COOL CHOICE研究所」実施の様子（エコプロ2019にて）

地球温暖化対策の啓発活動に係る調査研究

啓発活動の効果に関する調査研究として、地球温暖化対策行動に関わる啓発前後の、参加者のマルチベネフィット（複合的な便益）に関する意識データと温暖化対策行動の実践状況データの収集を行い、これらの関係性からマルチベネフィットの意識変容による温室効果ガス削減効果を試算することで、啓発活動に関する新たな評価指標の提案を目的とし調査を行いました。

地域が異なる3つの大学の学生を対象に調査・検討した結果、啓発後には、特に冷蔵庫やテレビ、エアコンの使用方法やLEDへの取り換え等の温暖化対策行動が促進されたとともに、「住んでいるところが、より住みやすくなる」等のいくつかのマルチベネフィットの捉え方についても良い方向に変化したことが確認できました。また、啓発によってマルチベネフィットの捉え方がポジティブに変化した人は、CO₂排出削減効果が40.8(kg-CO₂/年)以上であるということが確認されました。今後は、より一般化した評価値を提案するために、調査対象を広げることが課題です。

今年度も地球温暖化対策の普及啓発を広げ、温室効果ガスの排出削減効果の拡大につながる成果を目指して環境省ならびに全国の地域センターと連携して活動してまいりますので、引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

第16回社員総会（令和2年度定時社員総会）報告



令和2年6月24日（水）午後1時30分から、正会員49団体の参加を得て、第16回社員総会を開催しました。冒頭に、当法人理事長高田研の挨拶、次に、環境省 地球温暖化対策課 脱炭素ライフスタイル推進室前室長 磯辺信治 様よりメッセージをいただき、読み上げさせていただきました。

その後、議事に入り、第1号議案から第4号議案まで、意見等を含め活発な議論が行われ、全ての議案が承認されました。今回は新型コロナウイルスの影響を受け、初のオンライン開始となり、ご参加いただいたすべての社員が全国の事務所や自宅からの参加となりました。

初めての試みのため、事務局も参加者も不慣れなところもありましたが、大きなトラブルもなく、スムーズに進めることができました。

また、移動の時間がなくなり、遠方の方も出席しやすくなったためか今までと比べ、多くの社員にご出席いただくことができました。



地域における地球温暖化防止活動2020 ~インパクトの創出に向けて~

現在、59の地域センターが各地で地球温暖化防止活動に取り組んでいます。今年度はこの内の57センターが環境省の「地域における地球温暖化防止活動促進事業」を実施することとなり、地球温暖化対策等についての広報・啓発活動など、多くの事業を計画しています。特に今年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から、人が集まる交流型イベントの中止や延期の可能性がある中で実施計画の策定となり、頭を悩ませた地域センターが多かったようです。そのような中、オンラインでイベントを開催する事業の提案がありましたので、ご紹介します。

ライトダウンやまなし特別編 with コロナ



配信し、映像・歌・解説とトークセッションにより、地球温暖化防止のメッセージを伝え、未来のためにどのような選択をしていくのかを考えるプログラムになっています。

このような手法は、パソコンやスマートフォン等で好きな場所から気軽に参加ができたり、アーティストとのコラボにより音楽がきっかけとなり、これまで環境問題に興味なかった方の参加が期待できるなどのメリットがあります。また、事前申込の限定配信とすることで、参加率を高めるといふ工夫や、当日の映像の2次利用による啓発効果の拡大も考えられている企画になっていて、コロナ禍に対応した新しい普及啓発のモデルになりそうです。

「ライトダウンやまなし」は、山梨県で毎年行われているライトダウンイベントです。山梨県地球温暖化防止活動推進センター（公益財団法人キープ協会）をはじめ、多くの方が企画・運営に参画し、今年で22回目の開催となります。例年であれば、県内各地に人が集まりプレイイベントやメインイベントが行われ、地球温暖化対策の取組を実践する契機となっていますが、今年度の開催においては、新型コロナウイルス感染症防止対策の観点からこれまでと同様の実施は難しくなりました。

そこで、山梨県地球温暖化防止活動推進センターは、イベント型の普及啓発の新しい手法として、WEBを活用した非集合型のライブイベントを計画し、シンガーとコラボした“オンラインプラネタリウム”と“トークセッション”を企画しました。ライブ画像をYouTubeで

地域における地球温暖化防止活動促進事業では、CO₂の排出ゼロで持続可能な社会づくりに向けた、効果的かつ自発的な行動変容やライフスタイルの選択を促す取組の拡大・定着の促進をめざしています。ひとつの活動主体では創出できないことも、自治体や市民、地元の事業者や大学、地域センターと連携することにより、新たな手法やアイデア等の創出が可能となります。是非、社会にインパクトのある取組を一緒にめざして行きましょう！

脱炭素チャレンジカップ

脱炭素チャレンジカップ

検索

2020 結果報告

2月19日(水)伊藤謝恩ホール(東京都文京区東京大学キャンパス内)で開催した「脱炭素チャレンジカップ2020」は、全国183団体の中から選ばれた4部門(ジュニア・キッズ、学生、市民、企業・自治体)28団体のファイナリストが趣向を凝らしたプレゼンテーション発表を行いました。

その結果、佐藤ゆかり環境副大臣より環境大臣賞5件と、寺門成真文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官より文部科学大臣賞が2件授与されました。また、ステージプログラムでは、前身の低炭素杯で受賞された4団体に、現在の取組についてご講演をいただきました。その後、パネルディスカッションを行い、過去、



現在、未来について語り合っていました。

◀ 環境大臣賞グランプリは「田舎のヒロインズ」が受賞!



脱炭素チャレンジカップ



▲ステージプログラムの様子



2021 はオンライン開催!

エントリー募集開始
8月中旬~9月末 締め切り(予定)

「脱炭素チャレンジカップ2021」は、新型コロナウイルス感染症の現状を鑑み、参加者およびスタッフの健康・安全面を考慮し、新たな形としまして、オンラインで開催することになりました。

前身の「低炭素杯」からの10年間の実績を踏まえつつ、時代のニーズや先進性に即した大会運営を心掛け、地域が主役となるべく、さらなる情報発信に注力していきたいと考えております。本大会をとおり、地域活動の活性化とネットワークの構築が促進されることによって、あらゆる主体のもと、「脱炭素」な地域づくりへの実現化が図られるものと期待します。

脱炭素チャレンジ
カップ2021は
2021年
2月9日(火)
開催です!

詳細は... <https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

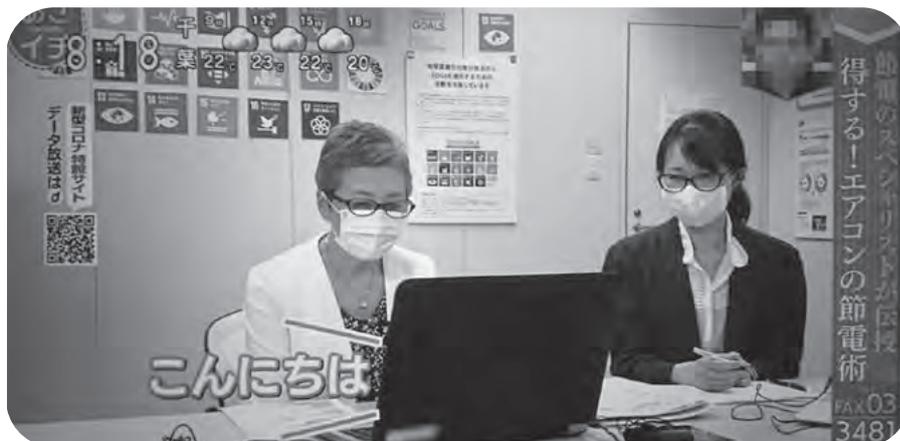


NHK「あさイチ」がうちエコ診断にクローズアップ！

2020年7月15日放送されたNHK朝の情報番組「あさイチ」の中で、うちエコ診断による冷房の上手な使い方についてアドバイスをしました。

視聴者の方とリモートで繋いで、夏場のエアコンに関するお悩みをヒアリング。夏場の電気代が高いこと、エアコンの効きが悪いことを悩んでいらっしやっただので、「うちエコ診断ソフト」と「しんきゅうさん」を使用して、具体的な光熱費の節約効果と合わせて、エアコンの節電術についてアドバイスをしました。

画像：NHK「あさイチ」放送画面のキャプチャー



番組内で紹介した
エアコンの節電術

- ✓ エアコンの設定温度を1℃上げると、10%の節電につながる。
- ✓ エアコンと扇風機を併用する。
- ✓ すだれなどを使って、窓からの熱をやわらげる。
- ✓ 10年以上使用しているエアコンは買い替えの検討をおすすめ。

ポイント 温度計・湿度計

部屋の温度と設定温度が同じくらいになっているか確認

秋元 智子さん



特に、エアコンの設定温度を1℃上げると、10%の節電になることをお伝えすると、視聴者の方も「それは大きいですね〜！」と驚かれました。

また、熱中症への注意点として、温度計・湿度計を部屋に設置して、室温と湿度を確認しながらエアコンを使用する方法についてもお伝えしました。



放送内容の詳細は・・・

<http://www1.nhk.or.jp/asaichi/archive/200715/1.html>

環境マークプログラム×キリンコラボプロジェクト始動！

地球温暖化防止全国ネットでは、オリジナルの小学生向け参加型学習プログラム「環境マークプログラム」をベースに、キリングループ（以下、キリン）の環境に関する取り組みを広く知っていただくための特別コラボプロジェクトを行っています。

昨年秋に試行実施したコラボプロジェクトですが、今年は、環境マークプログラムにキリンオリジナルツールとして「かんきょうマークはっけん手帳」を追加しました！子どもたちが身近なところで環境マークを探し見つけてくると、実施団体の指導者が確認、かんきょうマークはっけん手帳にキリン提供のエコパンダシールを貼ることにより、より継続的にモチベーションアップを図る仕組みを意識して開発しました。この夏より50団体の学童保育・ガールスカウト・ボーイスカウト等のみなさんたちが本コラボプロジェクトに参加し、活動を開始しています。

普段身のまわりで使っているものや、食べもの、飲みものから考える地球温暖化を、ゆるーく長〜く、より継続的に楽しみながら学べるプログラムとなっております。各団体の実施結果につきましては、また追ってご報告したいと思います。乞うご期待！



- ▲ 追加ツール「かんきょうマークはっけん手帳」など
- ◀ 指導員向け実施説明会をオンラインで開催しました



ぶんちゃんのひとりごと

生物多様性ってなに？

シリーズ3回目の今回は、コアなファンが多いユキヒョウについてです。



どこにいるか
見つけられるかな？

© Tomo Akiyama



敵に見つかからないように
擬態しています

ユキヒョウってどんな動物？

分類：ネコ科 ヒョウの仲間
体長：オス：104~125cm メス：86~117cm
体重：オス：25~55kg メス：21~53kg
生息地：ネパールや天山山脈、パミール、カシミールなど、内陸アジアの山岳地帯
(標高600~6,000mにある岩場や
草原・樹高の低い針葉樹林等に生息)

写真提供：
Tomo Akiyama

食べ物：ヒツジやヤギ、シカの仲間、ウサギ、鳥類等
寿命：野生下約15年、飼育下約20年
絶滅危惧種 (VU)：推定個体数は4,000~8,000頭

ユキヒョウは、最も高地にすむネコ科の野生動物です。特徴は、太くて短い足と体の半分以上の長さの尾です。この尾は斜面や雪上でバランスを取るために長くなったと考えられています。また、雪の上で滑り止めの役割を果たすために足の裏には長い毛が生えています。まさしく雪の高山で生活するために進化してきたネコです！

今、ユキヒョウは、絶滅の危機に瀕しています。美しい毛皮や薬の原料を目的とした密猟によって、生息数が減少しています。そして、追い打ちをかけるかのように、地球温暖化による気温の上昇で高山の草木や樹木が枯れ、自然界の獲物の数も減少。さらにユキヒョウは家畜を襲ってしまい、「害獣」とされてしまうケースもあり、さらなる悪循環が生じてしまっているのです。ユキヒョウをはじめ、貴重な生き物を失ってしまうというリスクのみならず、その地域で生活している何億もの人々への影響も心配されています。

現地の人でも、実際になかなか出会えることができない「幻の動物」とも呼ばれるユキヒョウ。これからも人間とユキヒョウが共存できる世界でありますように。

企画・広報グループ 高橋文彦

スタッフ紹介

企画・広報グループ 黒田真由美
Kuroda Mayumi

2018年10月入社の中田です。食べること、飲むこと大好きで、土日はひたすらバドミントンで汗を流しています。佐賀県生まれ、福岡県育ちです！



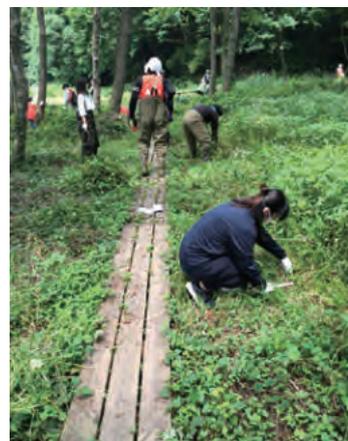
学生時代に「環境問題」に興味をもって進路を選択しましたが、卒業後は民間企業(メーカー)で働いていました。30歳を機に再度人生を見直したとき、全国ネットに出会いました。

民間企業で社会の荒波?に揉まれた経験は自分にとってプラスになっていますし、より“一般人”の視点をもって全国ネットで働いているのではないかと考えています。

企画・広報グループの一員として外に出て地域センターの皆さん、推進員の皆さん、市民の皆さんと対面する機会を多くいただき、時にはお話しさせて頂くこともあり、毎回学ぶことだらけです。地球温暖化の緩和・適応、SDGs達成のためには地域の皆さんと協力、共有、協働することが必須であると感じています。

この2年間で訪問させていただいた千葉県、佐賀県、山梨県、茨城県ではセンター職員の方々、推進員の皆様、地域で活動される皆様と交流を回り、一緒にイベントや活動を行いました。

まだまだ未熟者ですが、フットワークの軽さだけに自信がありますので、全国どこでも飛んでいきます！よろしくお願ひいたします。



茨城県センター、地域の皆さんと一緒に「セブンの森」整備のお手伝いをしてきました！

エコアナウンサー 櫻田彩子の

ミニコラム

「あなたのまわりに 未だ残されている すべての美しいもののことを考え 楽しい気持ちで日々をすごそう アンネ・フランク」

極限状態の中で少女が紡ぎだした言葉。東京谷中のお寺の門前に掲げられていました。この言葉は、お寺から、コロナ禍で自粛生活を強いられる人々への励ましなのだろうと、受け取りました。

しかしながら、現代の私達はITやコミュニケーションノウハウ、世界のひととの繋がりによって多くの情報や思考の広がりを獲得しています。この言葉の意味することを大事にしなが、プラスアルファの何かが出来そうです。



▲カモの子育て

コロナと生物多様性の損失、気候危機の原因の根源は同じです。地球温暖化防止への取り組みは一層、重要度を増しています。鳥たちは子育ての季節。自然の営みは、そのバランスを失いかけながらも、環り続け、コロナ禍で戸惑う私たちを勇気づけています。

櫻田彩子 プロフィール

Sakurada Ayako
Profile
宮城県出身の
エコアナウンサー。
テレビ朝日「じゅん散歩」
レポーターほか、
「脱炭素チャレンジ
カップ」の司会など。
全国ネット賛助会員。



表紙の写真：脱炭素チャレンジカップの様子

コロナ禍前に滑り込みセーフ!的に開催が叶ったチャレンジカップ。2020でもたくさんの脱炭素社会に向けたアイデアが共有されました。2021の新しい挑戦「オンライン開催」に向けて準備中です。



一般社団法人地球温暖化防止
全国ネットの活動をサポート
してください！

年会費：個人会員1口 5,000円
団体会員1口 20,000円

編集後記

毎号好評いただいている「ぶんちゃんのひとりごと」コーナー。今回は「ユキヒョウ」をテーマにとりあげましたが、この写真は秋山知伸さんから提供いただきました。秋山さんは世界各地の様々な動物の写真を撮影されています。今後、地球温暖化防止の教育・普及啓発のために多数の動物写真をご提供・協力をいただく予定で進めています。

「ぶんちゃんのひとりごと」でとりあげてもらいたい動物のリクエストもお待ちしております！

(企画・広報グループ 井原 妙)

地球温暖化防止全国ネット通信 第36号 2020年7月号

【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット (JNCCA)
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3
第一アマイビル4階
TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100
<https://www.zenkoku-net.org/>



古紙・パルプ配合率70%再生紙を使用

